

葬儀

だれもが迎える“最期のとき”

●考え・意見 (アンケートより)

- ★前もって相談したい気持ちもあるが、なかなか踏み切れない。
- ★希望することがあれば、早めに伝えておいた方が、残された人が大変な目に遭わなくて済むと思う。
- ★まだ、自分の両親がそのような気持ちではないので、言い出しにくい。
- ★すぐ予約をするつもりはまだないが、費用、葬儀の仕方についての知識は本や講座などで得たいと思っている。
- ★家族間で自分のときはこうしてほしいと話し合ったりするので、前もって予約は必要ないと思う。
- ★前もって家族や夫と話し合い、自分たちの考えを子どもたちに伝えてから実行に移したい。
- ★元気なうちに話題にすべきだと感じる。病気になって入院したり、実際に死を覚悟する状況になってからではそのような話はとてもしやないができない。
- ★子どもたちには時折、もしもときの希望を伝えている。しかし、自分の親については希望を聞いても「縁起でもない」と怒ってしまう。
- ★できるだけ早く相談に行き、決めておけば安心して生活できると思う。私はすでにその約束をしている。
- ★家族が困らないためにも、自分の意思にあった葬儀をするためにも、事前に決めておきたい。
- ★遠方で1人暮らしの母の葬儀をあらかじめ相談しておきたい。まだまだ元氣だが、もしもときは困るので。

グラフ、意見：日本消費者協会「葬儀についてのアンケート調査」報告書から抜粋

あなたはどのように考えますか？

お葬式の“生前予約”



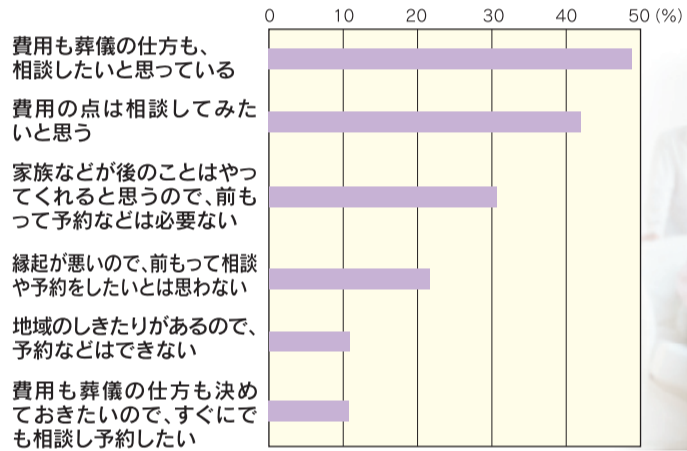
お葬式は時間的、精神的な余裕がない中で決めなければいけないことや準備することがたくさんあります。残された家族の負担を減らすための最善で最大の対策、それが生前予約です。

お葬式の生前予約とは

葬儀の内容や予算のことなどを事前に決定して葬儀社に依頼すること。自分が亡くなったときに依頼内容に基づいて葬儀を執り行ってもらいます。

では、実際のところ、みなさん「生前予約」について、どのように思っているのでしょうか？

●生前予約についての考え



春の事前相談&人形供養祭

4/14(土) 10時~16時 開催場所・くまもと県民葬祭「ファミリースペース東京塚」

知らない損をする お葬式講座

これだけはおさえておきたい事前準備のポイントを同社の森 輝和代表が分かりやすく説明。普段はなかなか聞けないお葬式に関する疑問にもお答えします。

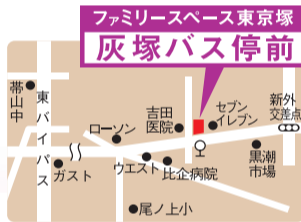
- ◆午前の部 10時半~
- ◆午後の部 13時半~

参加無料 人形供養祭

捨てるに捨て辛い人形や故人の所縁の品など

供養祭 正午~

◎人形以外でも白陶器のローソク立てや香炉、後飾り祭壇など... 持込可否はお電話にてお問い合わせください。
◎供養祭に参加ご希望の方は、事前にご予約のうえ11時30分までにご来場ください。



「時間を気にせず、悔いなくお別れができるための工夫」を随所に取り入れた施設です。施設の内覧や事前相談、お見積などは10時~16時のご都合の良いときにご来場ください。



◆お問い合わせ ☎0077-78-1059

知るほど! お葬式講座

葬儀費用は自分で用意する

お葬式で「後悔したくない」「トラブルに遭いたくない」とはだれもが思うこと。葬儀の事前準備として「葬儀費用は自分で用意する」という人も増えているそうです。葬儀に関する講演を行っているくまもと県民葬祭の森さんに「いくら必要?」「どんな方法で保管するの?」といった疑問に答えていただきました。



くまもと県民葬祭 森 輝和 社長

本人が亡くなっても口座は凍結されず、葬儀費用にあてることが可能です。
葬儀保険を利用する
例えば、毎月1500円の掛金で100万円の保障を受けられるような「葬儀保険」というものがあります。対象年齢の制限などもありませんが、医師の診察も必要ありません。お葬式は突然まともった金額が必要になるため、葬儀費用の負担を軽くすることができます。

「家族の負担を減らしたい」

以前であれば、自分のお葬式の内容や費用は、自分が亡くなってから家族が準備するものという考え方が一般的でした。しかし、最近は事前相談や生前予約という考え方も徐々に浸透し、葬儀社の現場でお客さまから聞く意見としても、「残される家族に負担をかけたくない」という思いから、自分で葬儀費用を準備しているという声は増えてきたと感じています。

葬儀費用を計算するには...

- ①規模... 会葬者の人数
- ②形式... 仏式、神式、キリスト教式、無宗教式など
- ③場所... 自宅、斎場、お寺、会場など

！互助会の場合

葬儀内容によっては掛金だけではまかなえず、大幅な追加料金が発生する場合もあることを知っておきましょう。また、破綻した場合のリスクや、どんなトラブルが起こっているのか、契約の内容をよく理解した上で決めてください。

！タンス貯金の場合

口座が凍結されるのを心配して、葬儀費用を家の中で保管しているという人もいます。しかし、当然ですが、大金を家で保管して盗難に遭うリスクは大きいです。

いくら必要か知りたい...

では、葬儀費用を準備するといつても、「いくらあればよいか」が気になるでしょう。実際の葬儀費用に足りるかどうかは別として、「葬儀費用は100万円準備する」という認識がみなさんあるようです。もともと具体的にどのくらいの金額が

！銀行口座に入れておく場合

本人名義の場合、本人が死亡すると口座は凍結されて、お金の出し入れができなくなります。凍結を解くにはさまざまな段階を

リスクを考えた準備の仕方

葬儀費用をどのような形で用意しておくかという点も大切です。

！解決策は...?

事前相談で個別の葬儀内容を決めて、葬儀代金を葬儀社に前もって預けておく「預託」という仕組みがあります。葬儀社の資産とは別に保管する分別管理がなされるので、預託金は保護される仕組みです。通常の本人名義の口座と違い、

まとめ

◆メリット、デメリットを考えた上で保管方法を決めること
◆お金を用意して安心ではなく、どのようなお葬式にしたいのか「葬儀の内容」まで計画を立てて、葬儀社や家族にも伝えておくことが大切です。

メールマガジン(無料)配信中

参列マナーから葬儀業界のウラ話まで、皆様に役立つ情報を毎週火曜日に配信中です。ご登録はウェブサイトのトップ画面から簡単にご登録できます。

くまもと県民葬祭 検索
www.0077-78-1059.com



今回は「くま経プレス6月号」掲載

次回テーマ 「自然葬」ってどんなもの?

このコーナーではみなさんからの葬儀に関する質問・ご意見をお待ちしています。お葉書またはメールにてお寄せ下さい。
〒860-8552 (住所記入不要) 「くま経プレス お葬式講座」係まで
press@kumamoto-keizai.co.jp